

育てよう 鏡野のよい子シリーズ



「数値には出てこない」

みなさんはベッパ君をご存じだろうか。ベッパ君は、人工知能搭載のロボットで、話しかけると会話する。気の利くベッパ君を見ていると、あるとき人工知能が人間に取って代わってしまうのではないかと不安になる。

しかし大学の先生によれば、人工知能が人間に代わることができるのは、読んだり計算したりといった、点数で表すことが可能な「認知能力」という分野だそう。これに対して、決して数値では表すことができない分野を「非認知能力」と呼ぶ。忍耐力や意欲、共感性、自分と向き合う力や、自分を高める力、他者とつながる力などがそれに該当する。

実はこの非認知能力が学びに向かう力になるといふ。私の中で、この話と富小学校での活動がピッタリと重なった。

富小学校の学校園は大変広い。それぞれの学級が十種類近くもの野菜を作ってもまだ土地が余るほどである。その学校園で、わずか四人の低学年が、作業をどれだけでできるだろうと案じたが、「やりたい！」と望むので、させてみた。大きな鍬を懸命に振り、畑を耕す。子どもたちは、すぐに音を上げるかと思いきや、予定していた広さをほんの一時間で耕してしまった。素晴らしい意欲と忍耐力である。

また、夏には全校で白賀川に行き、川遊びを行った。網を片手にのぞく川には、

サワガニ、ドロバエ、ドンコ、そしてオオサンショウウオまでいた。体操服が濡れるのおかまいなしで、水中メガネや箱メガネをのぞき込み、「そっちに行つたー」そこにおるが！と声を掛け合い、仲間同士で力を合わせ、魚を捕まえる。子どもたちはこのように遊びながら、他者とつながる力、コミュニケーションの術を身につけていく。

富には豊かな自然がある。そのひとつひとつが子どもたちを楽しませ、育ててくれている。子どもたちは、いつも楽しいことにアンテナを張り、「それ、やってみよう！」と訴える。楽しみをもっている子どもは生き生きとしており、学習にも意欲をみせる。

私がこの子たちにできることは、同じことが繰り返される毎日に、柔軟な発想で楽しみの仕掛けを散りばめ、子どもたちの非認知能力を高めていくことではないかと思う。非認知能力が伸びてこそ学習する意欲も湧いてくるのだ。

富小学校の子どもたちは全校で十四人。一体誰がたぐさんの友だちがいないといけないといったのか。友だちが少なくても子どもは心豊かに育っていく。私は今日もそれをこの学校で確信する。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

富小学校 小椋 倫子

のびのびひろば 歓喜の里山で自然を満喫！

(鶴喜保育園)

『里山』には、四季折々の植物や虫、急な斜面を登るロープ登り、水の中の生き物がすむビオトープ、鳥の巣箱などがあり、一年を通してさまざまな体験ができます。

里山に行くと「あっちに行ってみよ」「何かある！」「この棒何かに使えそう」などいろいろな物を見つけ、山道を駆け回って遊んでいます。

急な斜面を怖がっていた子どもも、遊んでいるうちに走って登り降りするようになったり、ロープ登りや丸太の上を歩くなど自分の力を試したり、草木の変化や山の匂いに気づいたり五感をいっぱい使って、心と身体を成長させています。これからは秋冬の自然遊びを楽しめそうです。

ロープ登り

よいしょ！

ビオトープ

さよりゅうが
おった！！

ホントは
イモリ(笑)

力を合わせて
とるぞー♪

ほくよりおきい！

タケノコ飯
おにぎり

自然(4~7月)
~タケノコ・竹~

見つけたタケノコは、ままごとで
使ったり、給食で食べたりしました。

のこぎりで竹を
切ったよ

ギコギコ

取った竹を
みんなで運び、
七夕飾りに
しました。

真剣な眼差し

虫探し

セミの抜け殻
見つけたよ♪

木の椅子も
あるよ~

竹でできた
秘密基地♪